

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 一番の防災は原発の ないこと	1月27日、原子力防災訓練が行われました。住民
	が皆自家用車で避難し、逃げ遅れた人をバスで拾っ
	ていくという設定で、原発から5km圏内のうち、桐
	ケ崎、三小仮設から、区長に依頼された各5人程が
	参加。8時25分に事故が発生、10時30分頃、桐ケ崎
	から住民を乗せ、雄勝、飯野川を通り、登米市へ向
	かうというものでした。
	実際、訓練に参加した人は、バスがどこに向かう
	のか知らず、ある人は「逃げろ、と言われても、地
	上と上空では風向きが違うから、どっちに向かった
	らいいのかわからない」と話していました。
	防災放送で町内に周知はしたものの、住民が参加
	したとは思えず、実効性に乏しく、現実味のないも
	のとは思えません。
	2月13日の河北新報によると、福島原発事故発生
	当時、アメリカの原子力規制委員会委員長だったグ
	レゴリー・ヤツコ氏が国会内で講演し、「安全と
	は、事故が起きても避難を必要としない状況」と警
	鐘を鳴らした、との報道がありました。
	東北電力の“軽微な”4,188カ所の点検誤記載も
	あります。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
2 未来に遺したい記憶とは	住民の安全を考え、女川の未来を考えるならば、
	原発をなくすことこそ一番の防災ではありません
	か。
	(質問の相手：町長・担当課長)
	江島共済会館が撤去され、女川交番が残されまし
	た。
	震災遺構とは、と考えた時、震災・津波で残った
	構築物と考えるだけでなく、別の視点があるので
	はないかと考え、次の点について伺います。
	(1) 津波被害を後世に伝え継ぐならば、「地域医
	療センター」「鷲神公園」も忘れてはならない
	場所です。
	2月5日、6日の新聞に、震災遺構や宗教施
	設を対象とした「東北お遍路プロジェクト」被
	災地巡礼地53カ所が発表されました。女川は含
	まれていません。
	政教分離の観点もありますが、鎮魂の場とし
	て、語り継ぐべきでは。
	(2) コンテナ村、きぼうのかね商店街等、仮設店
	舗は徐々に閉鎖されます。皆で肩を寄せ合った

[illegible]